

(前頁から続く)

たちの大きな集団に育っていました。しかし、それはそれでまた育ち行く悩みも見えはじめた時期でもありました。今、このような時期を迎え、昨年度から「区会・部会を活性化させよう」との審議・検討が始まっております。

微力ではありますが、部会の立場でこの審議に加わり、グループわの発展に協力できればと思っております。

季節の草花

ノアザミ

(生8) 久保 知彦

アザミのなかまは100種類ほどあるようですが、この中でもノアザミはもっとも普通にみられる多年草です。アザミ属は、筒状花のみで構成され、花の色は紫色というのが特徴ですが、この苞の部分は粘液をだして粘るのが特徴で、葉は極端に深く裂けており縁がとげ状で、さわると痛い。

春の花のように思われていますが、5~8月にかけて花が咲きます。高さ50cmから100cmほどで、「あざみの歌」も歌われているように親しみやすい花です。しかし、アザミのなかまには、高さ2mにも達するサワアザミやハクサンアザミというのがあります。

福井県の山奥で白山の山麓にちかい地方にはこのアザミが自生していました。葉は広くてあまりトゲがありません。このあたりではこの葉をトイレの用足しに使っていました。

オオニジュウヤホシテントウ(テントウムシダマシ)のなかまは草食で、このアザミを食草としており、ジャガイモの葉を食べる害虫でもあります。この虫の食性を調べるために、山奥の分校(小中あわせて8名)に滞在したことがあります。今はこの村も分校もなくなってしまいました。



「子どもたちを見守ろう」

(園9) 中尾 富道

安全であるべき学校で、幼い子どもたちが突然襲われた、附属池田小学校の悲惨な事件(平成13年6月)は、子どもたちをはじめ、保護者・教師を恐怖に陥れました。その後も、近畿各地の学校で類似の事件が続き、私は「なにか施策を講じないと子どもが危ない」との思いを強くしました。

私たちの街ひよどり台では、主にお年寄りや子どもたちを対象に、30余りのボランティアグループがいろんな活動をしています。

これらのボランティアグループは年に一度集まり、活動報告、意見交換、新規事業などを話し合います。その席で私は、危険にさらされている子どもたちを地域で見守る、新しい活動の立ち上げが必要ではないかと提案、即、参加者全員の賛同を得ました。平成16年春5月の集いでし

ボランティアの心

た。地域内の全4,000戸にボランティア募集のチラシを撒き、8月末には、呼びかけに応じて参集の40名で発足集会を開きました。会の名称は「ひよどり台小学校こどもたちを見守る会」とし、提案者の私が代表に選任されました。

新学期9月に開始した活動内容は、「授業のある日、毎日午前8時半から午後4時半までの8時間、2名のボランティアが2時間交代で校舎入口に常駐し、来校者の確認をする」と決まり、翌年の12月からは、「低学年の下校時にあわせて地域をパトロールする」を加えました。活動開始以来5年、地域の関心は次第に高まり、現在会員はシルバーカレッジOBなどを中心に170名になりました。

ことしもまた可愛い1年生66名を迎えました。私たちは、子どもたちの安全・安心を願って「温もりのある笑顔と元気なあいさつ」をモットーに、見守り活動を続けています。

(このコラムはカレッジ情報誌「爽風」からの転載記事です)

